

平成22年度 学力向上マニフェスト【赤土小学校】

本年度の指導の重点	●努力目標・◎成果目標（数値目標）
<p style="text-align: center;">集団生活ルールの遵守 と 学習規律の確立</p> <p style="text-align: center;">（対象：全児童）</p>	<p>●「赤土版・授業規律一覧表」の内容について新規に『家庭学習のすすめ』の手引書を作成してその中に位置づけ、各家庭への啓発を図っていく。</p> <p>●生活アンケート年2回、授業アンケート年3回実施し成果を分析する。</p> <p>◎遅刻や集会中の私語0 →8割台より9割台にアップ</p> <p>◎名札、登下校時の校帽着用率100% →7割台より8割台にアップ</p> <p>1,2年（ ）内は昨年度実績</p> <p>◎おはなしをよくきいた (88→89%) より 90→95%△</p> <p>◎すすんで手をあげた (60→69%) より 70→80%△</p> <p>◎しせいよくできた (80→81%) より 80→85%△</p> <p>◎なかよくできた (87→90%) より 90→95%△</p> <p>◎わすれものがない (71→80%) より 80→85%△</p> <p>3~6年</p> <p>◎おしゃべりせず話がよく聞ける (81→85%) より 85→90%△</p> <p>◎進んで手をあげ発言する (55→56%) より 55→70%△</p> <p>◎しせいがよい (64→66%) より 65→70%△</p> <p>◎あいさつやことはづかいがよい (75→73%) より 75→80%△</p> <p>◎作業をきちんとていねいにする (77→80%) より 80→85%△</p> <p>◎友だちとなかよくする (88→90%) より 90→95%△</p> <p>◎わすれものをしない (83→84%) より 85→90%△</p>
<p style="text-align: center;">家庭学習の定着化</p> <p style="text-align: center;">（対象：全児童）</p>	<p>●新規に『家庭学習のすすめ』を作成し学習習慣定着への啓発を実施する。</p> <p>●年4回「家庭学習がんばろう週間」の実施とリーフレットの活用を図る。</p> <p>◎平日の平均学習時間（20年度66, 8→21年度71, 0分）より75分△</p> <p>◎休日の平均学習時間（20年度58, 4→21年度59, 4分）より60分△</p> <p>●家庭読書習慣、検定練習を奨励し、学校や外部機関等で評価していく。</p> <p>◎月平均読書冊数（20年度13, 9→21年度14, 0冊）より15冊△</p> <p>◎年間貸し出し数（20年度19,112→21年度21,344冊）より22,000冊△</p> <p>◎日本語検定参加者数（合格率21年度1回目93%→2回目83%）より1割増</p>
<p style="text-align: center;">基礎的基本的学習 内容の習得力向上</p> <p style="text-align: center;">（対象：全児童）</p>	<p>●担任が児童と向き合う自由裁量の時間を確保し、個別指導の強化に努める。</p> <p>●放課後学習教室(保護者ボランティア活用)による復習指導の充実に努める。</p> <p>◎区学力調査の各教科の達成率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語（20年度83, 2→21年度80, 9%区82, 0）より区平均以上 ・算数（20年度75, 7→21年度75, 5%区82, 1）より区平均以上 ・理科（21年73, 6%区74, 7）社会（21年74, 1%区71, 9）より区平均以上
<p style="text-align: center;">学習意欲の喚起</p> <p style="text-align: center;">（対象：全児童） （理科社会科対象：5年児童）</p>	<p>●課題意識の喚起および動機付けの工夫、自己効力感の高揚を図り、児童にとって楽しい分かる授業について、理科・生活科実態調査年2回、授業アンケート年3回の実施と、区学力調査結果を通して各教科の関心意欲態度の実態をつかみ、課題と成果の分析に継続的に努める。</p> <p>◎とても楽しい・楽しい（昨年度83→82%）より85%台△</p> <p>◎とても分かる・大体分かる（昨年度91→90%）より93%台△</p> <p>◎国語の関心意欲態度（20年度71, 8→21年度73, 5%）より75%台△</p> <p>◎算数の関心意欲態度（20年度74, 0→21年度85, 5%）より87%台△</p> <p>◎理科の関心意欲態度（20年度69, 2→21年度67, 2%）より70%台△</p> <p>◎社会の関心意欲態度（20年度60, 6→21年度54, 5%）より65%台△</p>

PISA型学力の向上

(対象：全児童)
(活用力対象：5、6年)

- 校内研修の中心となる理科・生活科の授業実践を通して問題解決の能力の向上、学び方の習得、フィンランド・メソッドの指導法による発想力・論理力・表現力・批判的思考力・コミュニケーション能力の開発に努める。
- 理科・生活科実態調査の結果とともに、区学力調査結果を通して各教科の活用力をつかみ、課題や成果の分析に継続的に努める。

◎活用国語 教科総合(61.8→74.4)より75△ 発見する力(63.8→72.4)より75△
適応・応用する力(40.8→61.5)より65△ 表現力(61.8→74.4)より75△
◎活用算数 教科総合(47.4→52.6)より55△ 発見する力(66.4→30.8)より65△
適応・応用する力(52.6→46.8)より55△ 表現力(51.3→53.8)より55△

自然や文化への感性の向上

(対象：全児童)

- 学校敷地内の自然環境の充実を図る。
- 生活科や理科・総合的な学習の中でどの児童も自然とかわり自然に働きかける体験学習の場(身近な尾久の原公園での動植物観察・ケナフ栽培等)を通して個々の感性を刺激し、生活科・理科・総合的な学習好きな児童を育てる。
- 日本の伝統文化(茶の湯等)やもの造り体験を通して内面を耕し感性の向上を図る。

◎理科・生活科実態調査(1回目→2回目)あてはまる項目の増加
◎総合的な学習アンケート(1回目→2回目)あてはまる項目の増加
◎調べる学習コンクール参加数と入賞数アップ
(20年度116名名→21年度102名△)→120名△
(20年度入賞1名→21年度2名△)→5名△

教師の授業力向上

(対象：全教師)

授業診断・6項目の内容

【子ども】

- ◇楽しそうに生き生きと授業を受けているか
- ◇教師の話をよく聞き授業に集中しているか
- ◇積極的に発言しているか

【教師】

- ◆分かりやすく丁寧に説明や指示をしているか
- ◆一人一人の様子を見て子どもたちの意見を尊重しているか
- ◆教室環境や学習規律が整えられているか

- 校内研究の授業公開を22名全教員に課し、授業実践研究年6回のうち6回分の外部講師招聘回数を当日の他にも3回分以上実施することで校内研究の活性化を図る。

- 教師による自己評価2回、児童による授業アンケート3回、保護者による授業診断3回の他、主体的な問題解決活動への意識調査2回を実施し、結果を生かしながら授業の指導法の改善策を練ることができるようにする。

- 家庭学習の課題や授業ノートの9割より10割について、その日のうちに確認や点検ができるようにする。

◎授業診断の6項目の評価数(回収：22年1月：第3回分)

そう思う	普通	そう思わない	無記入
830	366	68	0
66%	29%	5%	0%

↓ 70%△ 30% 0%△

◎主体的な問題解決活動への意識調査項目

- ・教師のおしゃべりを少なくすること(21年度8割)→9割△
- ・学習形態を2回以上変えること(21年度5割)→6割△
- ・ノートを必ず活用すること(21年度6割)→7割△

◎区学力調査の各教科の達成率

- ・国語 20年度83.2 → 21年度80.9 → 84△
- ・算数 20年度75.7 → 21年度75.5 → 80△
- ・理科 20年度62.9 → 21年度73.6 → 75△
- ・社会 20年度80.0 → 21年度74.7 → 80△

